

歯内療法学・歯周病学実習 I

責任者名：佐藤 秀一

学期：前期

対象学年：4 年

授業形式等：実習

◆担当教員

佐藤 秀一(歯科保存学Ⅲ 教授)

白川 哲夫(小児歯科学 教授)

高森 一乗(小児歯科学 専任講師)

武井 浩樹(小児歯科学 助教)

石山 未紗(小児歯科学 助教)

武市 収(歯科保存学Ⅱ 教授)

林 誠(歯科保存学Ⅱ 教授)

勝呂 尚(歯科保存学Ⅱ 専任講師)

清水 康平(歯科保存学Ⅱ 准教授)

羽鳥 啓介(歯科保存学Ⅱ 助教)

鈴木 裕介(歯科保存学Ⅱ 助教)

安川 拓也(歯科保存学Ⅱ 助教)

菅野 直之(歯科保存学Ⅲ 准教授)

吉沼 直人(歯科保存学Ⅲ 准教授)

西田 哲也(歯科保存学Ⅲ 専任講師)

高山 忠裕(歯科保存学Ⅲ 准教授)

蓮池 聡(歯科保存学Ⅲ 助教)

間中 総一郎(歯科保存学Ⅲ 助教)

◆一般目標 (GIO)

歯内治療および歯周治療を実践するために必要な基本的臨床手技をシミュレーション実習を通して修得する。

◆到達目標 (SBO s)

- ①適切な身だしなみ、言葉遣いおよび態度で医療面接を実施できる。
- ②安全、清潔、感染予防に配慮した行動ができる。
- ③乳歯の歯髄切断法を実施できる。
- ④歯髄・根尖性歯周疾患の検査、診断および治療が実施できる。
- ⑤歯周疾患の検査、診断および治療が実施できる。

◆評価方法

各実習日の説明内容を振り返り、理解した内容をレポートで提出し評価する (80%)。レポートは手書きのみとし、実習項目、日付、学生番号、名前を最初に明記する。完成したレポートはスキャナーあるいは Scannable 等のスマホ、ipad アプリを用いて PDF ファイル形式に変換し、指定されたメールアドレスに期日までに提出すること。通信環境等により期日までに提出できない場合も必ずその旨をメールにて報告し、指示を受けること。添付するメールの件名には「歯内療法学・歯周病学実習 I レポート 学生番号 (4桁) 名前」を記すこと。期日までに提

出されなかった場合は評価を行わない。

なお、7-9回ならびに22-24回は指示された課題に対するレポートを上記と同様に作成、提出されたものを評価する。43-45回は指示された課題に対する動画を各自撮影し、その動画ファイルをメール件名「歯周病学動画ファイル 学生番号 名前」に添付し評価する（7-9、22-24、43-45の3回で20%）。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
佐藤 秀一	金曜日 17:00~18:00 歯科保存学Ⅲ教授室（本館6階）	satou.shuuichi@nihon-u.ac.jp 03-3219-8097	
白川 哲夫	月曜日 17:00~18:00 小児歯科教授室（本館6階）	shirakawa.tetsuo@nihon-u.ac.jp 03-3219-8096	
武市 収	月曜日 17:00~18:00 歯科保存学Ⅱ教授室（本館6階）	takeichi.osamu@nihon-u.ac.jp 03-3219-8132	

◆授業の方法

毎回の実習の内容を教科書（実習要綱）で把握してください。実習では動画の提示、実演、実技指導等により理解を深めてもらいます。実習後に定期的に復習をすることにより、OSCEや翌年の臨床実習に備えてください。

【実務経験】佐藤秀一、白川哲夫、武市収：現在、在職している日本大学歯学部附属歯科病院での臨床経験を活かし、関連する歯科医学の知識の確認も行いながら、本実習で学ぶ内容の実技指導を行います。

◆教材（教科書、参考図書、プリント等）

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
教科書 1	小児歯科学基礎・臨床実習 第2版	前田隆秀、福田理、白川哲夫、牧憲司編	医歯薬出版	2014
教科書 2	歯内療法学実習要綱：基礎実習編	日本大学歯学部歯科保存学第Ⅱ講座編		2018
教科書 3	歯周病学実習要綱	日本大学歯学部歯科保存学第Ⅲ講座編		2019
参考書 1	歯内治療学 第5版	中村洋、須田英明、勝海一郎、興地隆史編	医歯薬出版	2018
参考書 2	ペリオドンタルインストルメンテーション	勝山茂、伊藤公一監訳	医歯薬出版	1997
参考書 3	歯周治療の指針 2015	日本歯周病学会編	医歯薬出版、日本歯	2016

			周病学会ホームページよりダウンロード可	
参考書 4	臨床歯周病学 第3版	村上伸也、申基喆	医歯薬出版	2020

◆DP・CP

[DP3]コンピテンス：論理的・批判的思考力

コンピテンシー：多岐にわたる知識や情報をもとに、倫理的な思考や批判的な思考ができる。

[DP4]コンピテンス：問題発見・解決力

コンピテンシー：自ら問題を発見し、その解決に必要な基本的歯科医学・医療の知識とスキルを修得できる。

[CP3]幅広い教養と歯科医療に必要な体系的な知識を基に、論理的・批判的思考力と総合的な判断能力を育成する。

[CP4]歯科医学の基礎知識を体系的に修得し、臨床的な視点で問題を解決する能力を養成する。

◆準備学習(予習・復習)

予習は実習要綱をよく読んで、実習内容と関連している講義内容の理解を深めておくこと。また、実習要綱や事前配布資料等を確認し、器材等漏れのないように実習準備を行うこと。復習はその日に行った実習内容を再確認し理解を深める。

◆準備学習時間

各回ごとに1時間程度を予習と復習に充てる。

◆全学年を通しての関連教科

Introduction to Medical and Dental Topics（1学年前期）

運動器（2学年前期）

神経（2学年前期）

内臓（2学年前期）

脈管・感覚器（2学年前期）

組織学（2学年前期）

知の構築技法（2学年前期）

口腔組織学（2学年後期）

口腔組織実習（2学年後期）

発生学（2学年後期）

口腔生理学（2学年後期）

口腔生化学（2学年後期）

微生物の基本操作（3学年前期）

歯科放射線学総論（3学年前期）

口腔衛生学（3学年前期）

Approaches to Basic Research（3学年前期）

病原微生物と感染症（3 学年後期）
 薬理学総論（3 学年後期）
 衛生学実習（3 学年後期）
 小児の歯科診療の基礎（3 学年後期）
 臨床口腔病理（3 学年後期）
 臨床口腔病理実習（3 学年後期）
 炎症と臨床検査（3 学年後期）
 歯科学統合演習Ⅳ（4 学年通年）
 歯周病学（4 学年前期）
 歯内療法学（4 学年前期）
 歯科放射線学各論（4 学年前期）
 アドバンスト歯内療法学・歯周病学（4 学年後期）
 歯内療法学実習Ⅱ（4 学年後期）
 歯周病学実習Ⅱ（4 学年後期）
 専門総合特別講義Ⅲ（4 学年後期）
 歯科学統合演習Ⅴ（5 学年通年）
 臨床実習（5 学年通年）
 POS 型医療の構築（5 学年前期）
 臨床推論の構築（5 学年後期）
 臨床実習アドバンスト（6 学年前期）
 症例演習（6 学年前期）
 歯科学統合演習Ⅵa（6 学年前期）
 専門総合特別講義Ⅰ（6 学年前期）
 歯科学統合演習Ⅵb（6 学年後期）
 専門総合特別講義Ⅱ（6 学年後期）

◆予定表

回	クラス	月日	時間	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1 ～ 3		5.15	5 ～ 7	小児歯科学実習 1. 乳歯の歯髄炎の治療法（講義） 2. 乳歯の生活歯髄切断法（1） 1)実習説明 2)ラバーダム防湿 3)齶窩の開拡（露髄まで） （教1）pp.33-40, 49-53	<ul style="list-style-type: none"> ・乳歯において生活歯髄切断法が多用される理由を説明できる。 ・生活歯髄切断法の適応症，禁忌症，器具，材料の滅菌の考え方を説明できる。 ・歯髄切断の術式を修得する。 	小児歯科	E-4-2) 小児の歯科治療
4		5.22	5	3. 乳歯の生活歯	・乳歯の生活歯髄切断に使用する薬	小児歯科	E-4-2) 小児の

～ 6			～ 7	髓切断法（２） 4)天蓋の除去 5)冠部歯髓の除去 6)根部歯髓の切断 7)糊剤の貼付 8)裏層・支台築造 （教１） pp.49-53	剤の性質，性状，操作法を説明できる。 ・ 歯冠部歯髓を除去した歯の支台築造，歯冠修復の必要性とその材料について説明できる。 ・ 支台築造した歯の高径の調整方法を説明できる。		歯科治療
7 ～ 9		5.29	5 ～ 7	3. 小児歯科学実習の試験	・ 課題レポートの提出を行い，理解度をチェックする。	小児歯科	E-4-2) 小児の歯科治療
10 ～ 12		6.5	5 ～ 7	歯内療法学実習 1. オリエンテーション 1)実習についての説明 2)器具点検 3)第5・6・7回実習説明 4)理解度チェックについての説明 （教２） pp.1-19	・ 歯内療法学実習の方針と心構え，注意事項，頻用する器具・薬剤の説明と取り扱い上の注意点を説明できる。 ・ 第5・6・7回実習（診査・診断，歯髓保存療法）についての要点を説明できる。	歯内療法	E-3-3)-(2) 歯髓・根尖性歯周疾患の診断と治療
13 ～ 15		6.12	5 ～ 7	2. 歯髓疾患の診査・診断法 1)歯髓電気診断法 2)温度診 3)エックス線写真読像法 4)理解度チェック （教２） pp.5-9 （参１） pp.27-49	・ 歯髓電気診・温度診の実際について実習を行い，その目的を理解し，術式を修得する。 ・ エックス線写真を読像する事によりエックス線から得られた情報の解析法を理解，習得する。 ・ 第5回実習前に実習内容の理解度をチェックする。	歯内療法	E-3-3)-(2) 歯髓・根尖性歯周疾患の診断と治療 F-2-2) 全身状態の把握及び歯科治療に必要な診察と検査
16 ～ 18		6.19	5 ～ 7	3. 歯髓鎮痛消炎療法(透明根管模型) 4. 各種セメントの練和法・混和法 1) セメントの練和	・ 初期齲蝕，急性症状を有する歯髓疾患に対する歯髓鎮痛消炎療法を，透明根管模型（大白歯）を用いて実習する事で，治療の目的を理解し，治療術式を習得する。 ・ 歯内療法治療で頻用される各種薬	歯内療法	E-3-3)-(2) 歯髓・根尖性歯周疾患の診断と治療

				<p>法</p> <p>2) セメントの混和法</p> <p>3) 理解度チェック (教2) pp.10-15 (参1) pp.51-84</p>	<p>剤・セメント類の選択法, 練和法と混和法の相違を学習する。</p> <p>・第6回実習前に実習内容の理解度をチェックする。</p>		
19 ～ 21	6.26	5 ～ 7	<p>5. 歯髄保存療法</p> <p>1) 覆髄法(透明根管模型)</p> <p>2) 覆髄法(マネキン用顎模型)</p> <p>3) 理解度チェック (教2) pp.16-19 (参1) pp.51-84</p>	<p>・歯髄保存療法である覆髄法(直接法と間接法)の目的を理解し, その治療術式を習得する。</p> <p>・本実習では間接覆髄法を実習するが, 露髄した際には直接覆髄法に移行する事で両治療法の実際を理解する。</p> <p>・第7回実習前に実習内容の理解度をチェックする。</p>	歯内療法	E-3-3)-(2) 歯髄・根尖性歯周疾患の診断と治療	
22 ～ 24	7.3	5 ～ 7	<p>6. 実技試験</p> <p>歯内療法学実習に対する課題レポート提出</p>	<p>・実習で履修してきた実習項目に関する理解度を評価するために課題レポート提出を行い, 一連の術式を再確認し, 問題点を理解する。</p>	歯内療法	<p>E-3-3)-(2) 歯髄・根尖性歯周疾患の診断と治療</p> <p>F-2-2) 全身状態の把握及び歯科治療に必要な診察と検査</p>	
25 ～ 27	7.10	5 ～ 7	<p>歯周病学実習</p> <p>1. オリエンテーション</p> <p>2. 器具点検</p> <p>3. 検査 基礎1 (教3) pp.1-15, 36, 37 (参2) pp.26, 27</p>	<p>・歯周病学実習の方針と注意事項を説明できる。</p> <p>・歯周治療模型上での病変部の形態を説明できる。</p>	<p>吉沼 直人</p> <p>佐藤 秀一</p> <p>菅野 直之</p> <p>西田 哲也</p> <p>高山 忠裕</p> <p>蓮池 聡</p> <p>間中 総一郎</p>	<p>F-1-2) 医療安全・感染対策</p> <p>F-2-2) 全身状態の把握及び歯科治療に必要な診察と検査</p> <p>E-3-3)-(3) 歯周疾患の診断と治療</p>	
28 ～ 30	7.17	5 ～ 7	<p>4. 検査 基礎2 (教3) pp.17-46 (参2) pp.5-106</p>	<p>・プローブの特徴を説明できる。</p> <p>・正しいプロービングの方法を習得する。</p> <p>・実習前に理解度チェックおよびフ</p>	歯周病	<p>F-1-2) 医療安全・感染対策</p> <p>F-2-2) 全身状態の把握及び</p>	

					フィードバックを行い、実習内容の理解を深める。		歯科治療に必要な診察と検査 E-3-3)-(3) 歯周疾患の診断と治療
31 ～ 33		7.31	5 ～ 7	5. 診査 臨床 (教3) pp.17-46 (参2) pp.5-106	・チャートの記入法を習得する。 ・実習前に理解度チェックおよびフィードバックを行い、実習内容の理解を深める。	歯周病	F-1-2) 医療安全・感染対策 F-2-2) 全身状態の把握及び歯科治療に必要な診察と検査 E-3-3)-(3) 歯周疾患の診断と治療
34 ～ 36		8.7	5 ～ 7	6. 咬合分析 7. エックス線検査 (教3) pp.47-55 (参2) pp.61-71	・スタディキャストの所見を参考とし、歯周病患者の口腔内の自覚症状、習癖、顎運動の状態を説明できる。 ・エックス線写真で歯と骨の関係を説明できる。 ・実習前に理解度チェックおよびフィードバックを行い、実習内容の理解を深める。	歯周病	F-2-2) 全身状態の把握及び歯科治療に必要な診察と検査 F-2-1) 医療面接 E-3-3)-(3) 歯周疾患の診断と治療
37 ～ 39		8.14	5 ～ 7	8. 診断 9. 治療計画 (教3) pp.56-63 (参2) pp.277-285	・臨床所見、口腔外、すなわち頭頸部、顔面の病変あるいは異常と口腔内、特に歯周組織検査、咬合分析、エックス線検査をもとに、総合的な診断の仕方および治療計画の立案の方法を習得する。 ・実習前に理解度チェックおよびフィードバックを行い、実習内容の理解を深める。	歯周病	F-1-1) 口腔内の診察・記録 F-2-1) 医療面接 E-3-3)-(3) 歯周疾患の診断と治療
40 ～ 42		8.21	5 ～ 7	10. プラークコントロール (教3) pp.64-68 (参2) p.69	・プラークコントロールレコードの記録方法や口腔清掃器具の正しい使用法を習得し、自身の口腔清掃を行えるようにする。	佐藤 秀一 菅野 直之 吉沼 直人 西田 哲也	F-1-2) 医療安全・感染対策 F-2-2) 全身状態の把握及び

					<ul style="list-style-type: none"> ・患者に対するプラークコントロールプログラムと指導法を説明できる。 ・実習前に理解度チェックおよびフィードバックを行い、実習内容の理解を深める。 	高山 忠裕	歯科治療に必要な診察と検査 F-3-3) 歯と歯周組織の疾患の治療 E-3-3)-(3) 歯周疾患の診断と治療
43 ～ 45		8.28	5 ～ 7	歯周病学実習の試験	<ul style="list-style-type: none"> ・ここまでの履修項目に対する実技試験として、指定された課題の動画を撮影し、提出することで習得度をチェックする。 	歯周病	F-1-1) 口腔内の診察・記録 F-1-2) 医療安全・感染対策 F-2-1) 医療面接 F-2-2) 全身状態の把握及び歯科治療に必要な診察と検査 F-3-3) 歯と歯周組織の疾患の治療 E-3-3)-(3) 歯周疾患の診断と治療

担当グループ一覧表

グループ名	教員コード	教員名
小児歯科	2007	高森 一乗
	2292	武井 浩樹
	2675	石山 未紗
	1537	白川 哲夫
歯内療法	1204	林 誠
	1241	勝呂 尚
	1803	清水 康平
	2294	羽鳥 啓介
	2968	安川 拓也
	3084	鈴木 裕介
	1151	武市 収
歯周病	950	吉沼 直人
	998	佐藤 秀一
	1065	菅野 直之
	1169	西田 哲也
	1569	高山 忠裕
	2298	蓮池 聡

